

2015年1月20日掲載 輸送経済新聞

中京・東海
— 関東間で

共同運行を開始

効率化と安定輸送を追求

トナミ運輸・第一貨物

トナミ運輸（本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長）と第一貨物（同・山形市、武藤幸規社長）は十三日、中京・東海―関東間の幹線共同運行（「U3面コラム」ことは「教えて！」を参照）を開始した。各社の積み合わせ貨物を五トずつ、大型トラックに共同で積載し、運行。自社便による共同化の促進により、幹線運行のさらなる効率化と安定した輸送力の確保を図る。

（矢田 健一郎）



綿貫 勝介社長



武藤 幸規社長

コンセプトは、二社による一台の共同運行を行うのは、両社の小牧支店―関東間の二ルート。一便と、両社の富士支店―関東間の二ルート。一便つこと、荷量の変動に合わせてプラスマイナス〇・五分の調整が可能になる。備（よう）車を利用する場合を含め、プラスマイナス一台で対応していた従来より、コスト削減が図れるという。

共同運行を行うのは、両社の小牧支店―関東間の二ルート。一便と、両社の富士支店―関東間の二ルート。一便つこと、荷量の変動に合わせてプラスマイナス〇・五分の調整が可能になる。備（よう）車を利用する場合を含め、プラスマイナス一台で対応していた従来より、コスト削減が図れるという。

ろした後、東京を中心としたトナミ運輸の支店に向かう。

もう一便は、第一貨物の富士支店を五トの貨物を載せて出発した車が、トナミ運輸の富士支店で五トの貨物を積み、第一貨物の東京支店へ直行。二社の貨物を降ろし、トナミ運輸分は東北方面へ中継する。

月々金曜日の週五日、毎日各一便ずつを運行する仕組みだ。運賃は、各店が渡した貨物量によって支払う。

新たな共同運行の仕組みは、平成二十四年九月にトナミホールディングス、第一貨物、久留米運送の三社合併で立ち上げ

た共同運行事業会社ジャパン・トランス・ラインの運行部会で検討してきた。三社の運行体制を踏まえた結果、今回、トナミ運輸と第一貨物の二社による中京・東海―関東間の共同運行を実施することに決まった。

輸送力の安定
確保にも一助

両社にとって運行の一層の効率化につながる取り組みは、荷主にとってドライバー・車両不足が進む中で、安定した輸送力を確保できるメリットがある。配達リードタイムにも変更はない。

久留米運送を含む三社は今後、土日便の運行効率化や、施設の共用化、共同配達に向けた検討を進め、相乗効果の拡大に努めていく方針。